

事業承継

ストーリー

⑤3

介護現場―IT化

シーナ（神戸市兵庫区）は、兵庫県下でサービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを手がける。2016年、介護や障がい者福祉に特化したシステム開発を手がけるシステムプラネット（同）を買収した。

創業者が保有していた全株式をM&A（合併・買収）で取得。買収時の条件は、従業員の雇用維持や社名・商品名の変更

がないことだった。親族外承継を果たし、業容拡大を図っている。

シーナの創業は01年。

遅れていた介護現場でのIT化を進めてきた。

「病に倒れた父と、その介護に苦勞する母の姿をつぶさに見てきた。00年の介護保険制度施行を後押しに、介護を事業にしよう」と決意した」と振り返るのは、シーナの創業者で、システムプラネットの現社長を務める糟谷有彦氏。

糟谷氏は1979年に大学を卒業後、自動車販売店やシステム開発会社などで勤務。94年7月、

創業を決断

当時東京で働いていた糟谷氏に、兵庫県加古川市 篤と二報が入る。時はバブル崩壊の後遺症が続く就職難の最中。母とともに在宅介護を行うべく、同年9月に大阪のコンピュータ関連企業に再就職した。

16年、保険支払機関への介護報酬請求や各種帳簿作成を手がける介護業務支援ソフトウェアでクラウド型システムの市場投入を模索していた。すると、神戸商工会議所とみなと銀行から後継者難などを理由に株式売却を考えていたシステムプラネットの創業者の森崎美紀子氏を紹介された。

自社施設で実証

16年、保険支払機関への介護報酬請求や各種帳簿作成を手がける介護業務支援ソフトウェアでクラウド型システムの市場投入を模索していた。すると、神戸商工会議所とみなと銀行から後継者難などを理由に株式売却を考えていたシステムプラネットの創業者の森崎美紀子氏を紹介された。

16年、保険支払機関への介護報酬請求や各種帳簿作成を手がける介護業務支援ソフトウェアでクラウド型システムの市場投入を模索していた。すると、神戸商工会議所とみなと銀行から後継者難などを理由に株式売却を考えていたシステムプラネットの創業者の森崎美紀子氏を紹介された。

外部のシステム会社に委託することなく、自社グループ内で開発したソフトウェアの「実証の場」として、介護施設を

これを機に、糟谷氏は一念発起し創業を決断。知識習得に向け神戸市産業振興センター（神戸市中央区）を訪ねた。同センターのインキュベーターのインキュベーション

ソフトウエア開発は人材が要。女性社員の比率が高いシステムプラネットの買収を検討していた糟谷氏は「経営者が男性になると、（システムプラネットの）社風を一変させてしまう可能性がある」との懸念を抱き、森崎氏に顧問を依頼。M&A後も社員をつなぎ留めた。

それを機に、糟谷氏は一念発起し創業を決断。知識習得に向け神戸市産業振興センター（神戸市中央区）を訪ねた。同センターのインキュベーターのインキュベーション

ソフトウエア開発は人材が要。女性社員の比率が高いシステムプラネットの買収を検討していた糟谷氏は「経営者が男性になると、（システムプラネットの）社風を一変させてしまう可能性がある」との懸念を抱き、森崎氏に顧問を依頼。M&A後も社員をつなぎ留めた。

ソフトウエア開発は人材が要。女性社員の比率が高いシステムプラネットの買収を検討していた糟谷氏は「経営者が男性になると、（システムプラネットの）社風を一変させてしまう可能性がある」との懸念を抱き、森崎氏に顧問を依頼。M&A後も社員をつなぎ留めた。

（神戸・福原潤）
（火曜日に掲載）

M&Aでシステム開発参入



システムプラネットをM&A承継し業容拡大を図った（糟谷社長）

中小・ベンチャー・中小政策